

令和5年度 長崎市立山里小学校 学力向上プラン

学校教育目標

やさしさと思いやりで、笑顔がいっぱい
～本物の笑顔あふれる山里小～

「本物の学び」づくり・「本物の心」づくり・「本物の仲間」づくりを通して

重点努力事項(学力向上に関する事項)

- (1) 1人一台学習者用コンピュータの活用…「教育データ利活用推進校」指定を強みに
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- (3) 毎時間を「45分完結」で勝負するプロの教師
- (4) 「聞く・話す・読む・書く」の言語活動の基本的能力の育成
- (5) 読書活動の充実

児童の実態(令和5年度全国学力・学習状況調査より)

国語科、算数科、理科のすべての教科において、全国平均を上回っており、さらに、すべての設問において、全国の正答率を上回っている。ただし、以下のような課題もある。

- 正答数分布グラフによると、学力の二極化傾向が見られる。
- 調査の解答時間が十分でなかったと感じている児童が、全国平均よりも多い。
- 授業における ICT 機器の活用機会が少ない。
- 学習における ICT 機器の有効性を実感できていない児童がいる。
- 授業時間以外に読書をしない児童がいる。

改善策

- 教材文や問題文に線を引いたり丸で囲んだりすることを指導することで、文章の内容を捉えることができるようにする。
- 板書にめあてとまとめを明記し、1単位時間の学習内容を実感できるような構造的な板書に努める。
- 根拠を示しながら説明したり、友達と考えを交流したりする活動を重視する。
- 授業における振り返り活動を重視することで、学習内容を実感し、活用につながるようにする。
- 授業の中で1人一台学習者用コンピュータを活用する機会を作る。
- AI型教材「Qubena」を活用して、児童の実態を把握するとともに、個に応じた指導ができるようにする。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。
- 朝読書の時間の設定、授業での図書の利用、子ども新聞の配置など、読書活動の充実を図る。
- ユニバーサルデザインに基づいた授業や教室環境に努める。
- 「家庭学習ガイド」を保護者に配付し、家庭学習の充実を図る。
- 学校保健委員会と連携し、「元気アップカード」「ノーメディアデー」などの取組を進めることで、基本的な生活習慣の定着を図る。